



呉市立広南中学校 2 学年英語科「世界の食文化とつながろう」 実施報告

日 時： 2020 年 11 月 25 日 (水) 10:30~12:00

場 所： 呉市立広南中学校 (広南学園) (広島県呉市広長浜4丁目1番9号)

参加者： 日本語教室「せかいの花 2018～」メンバー 19 名
広南中学校 2 年生 19 名

活動内容： ①ブラジル、タイ、中国、ベトナム、インドネシアの 5 か国のグループに分かれ、各国の食文化を紹介、質疑応答(「せかいの花 2018～」メンバーより)
②日本の食文化の紹介、質疑応答(広南中 2 年生より)

— 活動の様子と参加者の感想 —

■ グループ① 中国 (発表者:王晶晶・劉楊)



■ 参加者の感想

- 日本に来て 10 年が経ちましたが、みんなの前で日本語で発表するのは初めてです。すごく緊張して不安でしたが、自分にとってすごく貴重な経験でした。今回は日本の中学生に中国の地元の朝ごはんを紹介しました。みんなが興味津々に話を聞いてくれて、すごく嬉しかったです。それから、中学生にハンバーグの作り方を教えてもらいました。普段、ハンバーグを作ることがあまりないですけど、作ってみたいと思いました。

この機会を通して、中学生とのお話ができて、自分も青春時代に戻った気分になりました。私ももうすぐ中学生になる娘がいます。今回の発表の内容は娘にも手伝ってもらいました。「お母さん、大丈夫ですよ、お母さんが伝えたいことを私は理解できたから、中学生たちはきっとお母さんが言った内容をちゃんと理解してくれます、頑張れ!」と励ましてくれました。

日本語には自信がないですけど、このような貴重な機会を通して、先生たちや家族や仲間たちに手伝っていただいて、自分が少し成長できたんじゃないかなと思います。本当にありがとうございました。(王晶晶)

- ・ 久しぶりに、広南中学校に行きました、今回は2年生の授業参観をすることになりました。広南中学校へ行くのは3回目ですが、私にとっては新たな体験になりました。

生徒さんたちは自分たちの好きな料理を教えてくださいました。一人の男の子がハンバーグの作り方を教えてくださいました。「トマトソースをかけたのが一番好きです。」と言いました。私は和風の大根おろしの方が好きです。生徒さんたちが「中国にはハンバーグがありますか。」と質問した時、私たちはお互いを見て誰も思い浮かびませんでした。でも「似ている料理がありますよ。握り拳ぐらゐの肉団子を揚げて煮込み、最後に餡をかけます。」と答えました。生徒さんたちはびっくりして、どんな風になるんだろうかと聞いたので、劉さんがスマホで調べて写真を見せ、中国語で【shizitou】と教えました。生徒さんたちと積極的に交流して、勉強になりました。私たちの日本語の発音が違う時、生徒さんたちが直してくれました、本当にありがたいことです。

今回、晶晶さんは初めて発表しました。おうちで何回も練習して、娘さんが発音を直してくれたと聞きました。本当に頑張りました。生徒さんたちに【油条 youtiao】の中国語の発音も教えました。旦那さんも素晴らしい【油条】の本物を、みんなに見せてあげるために作ってくれました。

私たちは普通ママだけど、授業を通して生徒さんたちと交流することができました。自分が学生の頃には絶対ありえないことです。だから、本当にこの中学校に自分も入りたいです。素晴らしい中学校です。参加させて頂いてありがとうございます。楽しい時間を過ごしました。（姜 紅姪）

- ・ 11月23日に広南中学校で「世界の食文化」の発表がありました。コロナの影響がある中で中学校の授業に参加できたことをありがたいと思います。「せかいの花」の学習者として参加させてくださって、「せかいの花」の先生たちと広南中学校に感謝しています。

校舎の2階に上がると、廊下から見る海の眺めがとても美しかったです。教室に入って、中学校2年生の3人と王晶晶さんが発表する「中国の食文化」グループに参加させていただきました。生徒さんたちが好きな料理と自分が作れる料理について真剣に語る様子を見て、生徒さんが心を込めて準備したことを感じました。王晶晶さんが「主人が漢字の読み方を書いてくれて、娘が発音を直してくれて、家で何回も練習したよ。」と言っていました。日本語で初めて発表した王さんは素晴らしかったと思います。王さんのご主人が、「生徒たちに本物を見せたい。」と手作りの油条（ユウティオ）を用意してくれて、優しいと思いました。

生徒さんたちと、日中の朝ごはんや現在の教育や部活などの相違点を話したり聞いたりして、楽しい時間を過ごしました。まだまだ話したかったのですが、いつのまにか時間になりました。

皆さん、機会があれば是非中国に行ってください。そして、朝食に油条を食べてみてくださいね！（劉楊）

- ・ コロナで部外者立ち入り禁止の学校が多い中、大勢での訪問を受け入れて下さった広南中学校に感謝しています。王晶晶さんが発表するグループに参加しました。中国の食文化というテーマで、何度も何度も練習した成果があり、本番ではシッカリと発表していました。晶晶さん、今回のことで自信をつけて、これからも新しいことにドンンドン挑戦して行って下さい。又、生徒さん達に自家製の油条を持って来て、見て貰うのも良いアイデアだと思いました。生徒達は「良い匂い、食べたい、美味しそう!」を連発。（食べてもらえなくて 残念）一方、生徒さん達も自分達の一番好きな食べ物、ハンバーグについて調べてきたことや意見を述べ、中国のハンバーグについての質問をしたりして、和気あいあいの会話がはずみました。会話がはずんでいくと話題が食文化から学校教育へと広がり、中国の教育の現状を知りました。国が違えば育った環境も違う、年代も違う人達が集い語りという本当は凄いいことなのに、それが自然に出来ていて素敵な時間でした。有難うございました。（サポートスタッフ 濱下）

- ・ 中国の晶晶さんのグループに参加しました。発表の時、写真を見せたり調理して持参した本物の揚げパンを触らせたりして、説明していました。他のメンバー達のフォローがあって、生徒さんの発表や質問も楽しい会話になりました。熱心に考え、一生懸命準備してきた事が素晴らしい結果になりました。その時間を一緒に過ごせて、とても嬉しく思いました。（サポートスタッフ 多賀谷）



■ グループ② ブラジル（発表者:佐々木マリア）



■ 参加者の感想

- ・ 中学生の子たちがすごく熱心に色々質問してくれて嬉しかったです。ブラジルの学校の様子について紹介したときに「ブラジルの小学校は1日4時間しか授業がないんだ、いいなー」と話していました。また、日本の子どもたちは自分たちだけで学校に行きますが、ブラジルでは親が送り迎えをして学校に行きます。そんな違いもおもしろいと言っていました。食文化については、『プリガデーロ』というコンデンスミルクで作る生キャラメルのことを紹介しました。これはパーティーをやるときに欠かせない食べ物です。生徒からは「どんな肉を食べますか?」という質問も出ました。「牛肉をたくさん食べます」と答えました。ブラジルの食文化を紹介した後、生徒が日本のカレーの作り方を教えてくれました。とても上手に発表していました。
今回参加した生徒の中に、ブラジル出身の女の子がいました。お母さんと知り合いなので懐かしかったです。皆さん一生懸命メモをして話を聞いてくれたことが嬉しかったです。（佐々木マリア 談）
- ・ ちゅうがっこうにはじめていきました。ミャンマーのはなしを ちゅうがくせいに しました。おもしろかったです。ブラジルじんは とてもあかるいです。ブラジルりょうりを もっとたべたいです。
ちゅうがくせいは ちゃんと はなしをきいていて いいとおもいました。
ミャンマーのことを もっと しりたいとおもいます。そして にほんじんにおしえたいです。（ハウルン）
- ・ 広南中学校の生徒さんとのふれあいの中で どこから来た人かと質問を受ける場面がありました。中学生たちが興味を持って質問してくれている中で、とてもうれしそうに、誇らしく答えていたのが印象に残りました。きつとハウルンさんの中でも ミャンマーの国への興味というよりも、自分と子供たちへの 興味を持ってくれたこと自

体が嬉しかったのではないかと感じました。その後もハウレンさんは非常にリラックスして活動に参加することができていたと思います。ほんの一コマの交流でありましたが、お互いに興味を持つことでどれだけ人の気持ちを動かすものかと改めて知ることができました。（サポートスタッフ 松橋）



■ グループ③ タイ（発表者：河田ユパー）



■ 参加者の感想

- ・ はじめて中学2年生の授業に参加しました。はじめてだから、どんな話がわかりやすいか考えて、緊張しました。不安だったけど、中学2年生さんがちゃんと話を聞いてくれて、質問してくれて、先生も助けてくれて安心しました。生徒さんの中には、お母さんがタイ人という生徒もいました。だからタイ料理のことも知っていました。発表する前、生徒さんは「タイ料理は辛い物ばかりだから食べられない。」と言いました。私が本を見せて料理の紹介をすると「辛いものだけじゃないんだ。」と、すごく楽しそうに話しました。また今度機会があったら、もっとがんばります！（河田ユパー）
- ・ タイ出身、ユパーさんのグループに入らせていただきました。「緊張する!」といいながら、沢山の写真を準備して上手にタイ料理の特徴を話していくユパーさん。写真でみると、辛いタイ料理の特徴や床に座って家族団らんで手掴みで食べるなどのマナーがよくわかりました。4人の中学生の中には、お母さんがタイの方という生徒さんがいらっしゃいました。「タイに行った事はあるけど、小さくて覚えていない。」そうです。お家でもタイの料理を作ってくれた事もあったそうですが、「辛いのはちょっと苦手」との事。その彼が、ユパーさんの話を聞いてどう感じたのか、聞いてみたいなと思いました。食を通して、国の文化に触れ違いと共に共通部分も感じられ、面白い授業でした。（サポートスタッフ 山本）



■ グループ④ インドネシア（発表者：小谷シスカ）



■ 参加者の感想

- ・ インドネシアの家庭料理と、学校で大切にしている教育について話をしました。料理については、インドネシアでは肉よりも魚をよく食べることで、土地が豊かなので三毛作（三期作）できることなどを話しました。インドネシアでは野菜や果物はたくさん採れますが、牛はやせ細っているものが多く、あまりおいしくありません。日本の肉は脂がたっぷりでとてもおいしいです。発表の後、生徒さんにインドネシアの家庭料理の写真をあげたらとても喜んでくれたので嬉しかったです。皆さんから質問がたくさんあって、熱心な姿に感動しました。
教育については、インドネシアの人が大切にしている『パンチャシラ』の教えのことを話しました。例えば、学校で授業が始まる前に「今日学校に行けたこと、皆さんと一緒に勉強できることに感謝します。」と言ってお祈りをします。インドネシアは、イスラム教、キリスト教、ヒンドゥー教など色々な宗教がありますが、このお祈りはどの宗教の人たちも一緒になって行います。この話をしたときに、生徒の皆さんが一生懸命メモをしてくれて嬉しかったです。また、このような機会があればぜひ参加したいです。（小谷シスカ 談）
- ・ インドネシアの概要・食文化、そしてインドネシアの人たちが大切にしている『パンチャシラ（国是）』の教えについて、シスカさんが一生懸命語ってくれました。発表するシスカさんの姿勢や言葉から、子どもたちに伝えたいという強い気持ちが伝わってきて、それを隣でサポートできたことが本当に嬉しかったです。
発表を聞く生徒さんたちも熱心にメモを取ったり、質問したりしていました。生徒の一人が「インドネシアにお正月はありますか？」と質問した際に、シスカさんがインドネシアのお正月の面白い習慣について話してくれました。「インドネシアでは、一年のはじまり（お正月）に、家族・親族・友達に挨拶をします。その挨拶は日本とは少し違います。その前の年に、もし私が何か失礼なことや、良くない行いをしていたらすいません、と謝ることが一般的です。お正月に謝ればすべて許してもらえます。なので、何か悪いことをしていたらこの日に謝るのがいいですよ。」この話を聞いて、生徒さんたちは大笑い。「そしたら、1年分まとめてお正月に謝ろう」と話す子もいました。今回のような交流の機会が、子どもたちにとって世界に興味を持ち、自分たちの地域に暮らす外国人の人たちに想いを寄せるきっかけになればいいなと思いました。
また、発表者にとっても、自分の生まれ育った国や地域を見つめ直したり、緊張しながらも日本語で話すことで自信に繋がったりする機会になるのだなと感じました。来年は広南中だけでなく、もっと多くの学校に広がっていくといいなと思いました！（サポートスタッフ 西村）

■ グループ⑤ ベトナム（発表者：ゴー タイン トウイ）



■ 参加者の感想

- ・ 中学校の授業に参加したことは、私にとってすごく良いチャンスでした。なぜかという、人の前で話せない私が、今は少し話せるようになりました。本当に嬉しかったです。言葉の量がちょっと増えて、自信も少し持って、特に、日本語がだんだん好きになっている感じがします。それは皆さんのおかげです。特に伊藤先生です。伊藤先生がいつも応援してくれたり、スライドも説明文を何回も直してくれたりしました。中学校に行く前に「せかいの花」の皆さんの前で練習した時も色々勉強になりました。本当にありがたいです。
当日生徒たちにお会いできて、良かったです。生徒たちの熱心な姿をみて、私の学生の頃を少し思い出しました。「これからもっと頑張らなくちゃ!」という気持ちになりました。
好きな家庭料理を一人ずつ教えてくれた時、男子生徒から「一番好きな料理は揚げ春巻きです。」と聞いて、すごく感動しました。その日生徒が教えてくれた麻婆豆腐は、夕食として作って食べました。「美味しかった。」と子供達に褒められました。
生徒たちは本当に可愛くて、熱心で、会話が盛り上がりました。だから、時間が過ぎてしまって、ずっと待ってくれた皆さんや先生たちや学生たちに申し訳なかったです。反省しています。
帰る途中コンビニで食べ物を買って海辺に行き、みんなで一緒に食べながらおしゃべりして、楽しかったですね。私にとって忘れられない良い思い出になりました。皆さん、ありがとうございました。（ゴー タイン トウイ）
- ・ トウイさんがとても良いスライドを作って、上手な日本語で話をされました。生徒さんたちに良く伝わったと思います。生徒のみなさんも、自分の好きな料理を教えてくださいました。とても分かりやすく、楽しい食事風景が想像できました。食事とおして優しい生活がみえる気がしました。（サポートスタッフ 脇）

— おわりに —

昨年度末、呉市広南中学校から次年度 3 学年の「総合的な学習の時間」にゲスト講師として招きたいというお話をいただきました。単発ではなく年間を通して計画的に進めていきたいということでした。日本語教室を開いている地域の中学生に、地域の現状や教室に通う外国人住民のこと、私たちが日本語教室を核にした活動で何を目標しているのか等を知ってもらいたい機会だと思い、喜んでお引き受けしました。

担当の先生方と相談を重ねながら、様々な視点からの授業を組んで次のように実施しました。

① 4月21日(火)	3 学年対象	「地域における日本語教室の役割 ～自己実現・仲間づくり・まちづくりの場として～」 → 動画を撮り、学校 HP を使ってオンラインでの授業になりました。
② 7月7日(火)	3 学年対象	「やさしい日本語♡講座」 → 第3回の活動を実りあるものにするための講座でした。
③ 8月3日(月)	3 学年対象	「5大陸の人とつながろう」ブラジル・中国を担当 → 母国紹介と共に、それぞれの思いを伝えてくれました。
④ 10月10日(土)		「文化活動発表会」3 学年の発表を参観 → ③で伝えたことが「芝居」という形で観客に伝わっていき、感激しました。
⑤ 11月25日(水)	2 学年対象	「食文化を通して世界とつながろう」 → 日本語教室「せかいの花 2018～」を丸ごと中学校に迎えてくれました。

コロナ感染予防のため、今年は 3 か月間日本語教室を休みました。再開してからも活動内容に大きな制限がかけられました。できないことが多い中、こうした機会をいただいたことは大きな喜びでした。

今回の発表のために考え準備し練習する時、仲間や家族の応援を受けて進めていました。それは各自の生活の中で大きな意味があったと思います。

中学校に出向き直接生徒と接して伝えあう様子を見てると、お互いに幅広い学びと気づきが生じていると感じました。

この日のことは、参加した人々の心に素敵な思い出としてずっと残ることでしょう。

素晴らしい機会に恵まれたことに感謝し、これからも人と人をつなぐ活動を進めていきたいと思います。



2020年12月22日
ひまわり21 代表
代表 伊藤美智代

